

2018年度教員業績：文化人類学コース

雑誌名	超域文化科学紀要
巻	24
ページ	105-113
発行年	2019-10-25
URL	http://hdl.handle.net/2261/00078944

文化人類学コース

|| 岩本 通弥

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「珍奇なるものから平凡なものへ——柳田國男における民俗学と民族学の位相」『超域文化研究紀要』23号、2018、27-56頁
- ・「日本の生活改善運動と民俗学——モダニゼーションと“日常”研究」(ハンゲル)『実践民俗学会』32号、2018、67-104頁
- ・「都市民俗学」都市史学会編『日本都市史・建築史事典』丸善出版、2018、476-503頁
- ・「日中韓・東アジアの生活変化／生活改善運動の比較研究」平和中島財団『国際学術研究助成研究成果報告書(平成29年度)』2018、29-32頁
- ・「現代日常生活的誕生——以1962年度厚生白皮書を中心」(中国語)周星・王霄冰編『現代民俗学的視野與方向——民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活』下巻、商務印書、2018、893-912頁

(3) 学会、研究会発表

学会発表(2件)

- ・「日本と韓国における家族内殺人事件の民俗学的分析——親子心中と介護殺人を事例に」北京大学医学部医学人文研究所主催「第2回北京大学医学人文国際シンポジウム——生・老・死を語る」(2018/11/15-16)
- ・「何気ない街を記憶する——民俗学の立場から」NPO法人ちば地域再生リサーチ+千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス(2018/11/25)

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・都市史学会編(2018)『日本都市史・建築史事典』丸善出版、全688頁(編集委員長:伊藤毅、編集幹事:岩淵令治・岩本通弥・北村優季・高橋慎一郎・中川理・山岸常人)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

民族文化論(Sセメスター)、人文科学ゼミナール(歴史学)(Aセメスター)

(2) 後期課程担当科目

民俗学(Sセメスター)、日本文化研究I(Aセメスター)

(3) 大学院担当科目

文化認識論II(Sセメスター)、民族社会論I(Aセメスター)

3. 学内行政業務

超域文化科学紀要編集委員長、学友会評議委員

||| 藏本 龍介

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・ 藏本龍介編 2019『非営利組織の経営に関する文化人類学的研究 (南山大学人類学研究所 研究論集 第6号)』南山大学人類学研究所。
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・ 藏本龍介 2019「組織の人類学に向けて」藏本龍介編『非営利組織の経営に関する文化人類学的研究 (南山大学人類学研究所 研究論集 第6号)』、pp. 1-19、南山大学人類学研究所。
- (3) 学会、研究会発表
 - ・ 藏本龍介 2018「ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方」日本文化人類学会 第52回研究大会。
 - ・ 藏本龍介 2018「現代ミャンマーの僧院生活」龍谷大学アジア仏教文化研究センター 2018年度第2回国際シンポジウム。
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・ 藏本龍介 2018「書評：山本信人監修・宮原暁編著『東南アジア地域研究入門2 社会』」『東南アジア：歴史と文化』47: 87-91。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
 - S：初年次ゼミナール文科
 - A：全学自由研究ゼミナール（文化人類学入門）
- (2) 後期課程担当科目
 - S：文化人類学基礎演習
 - S：文化人類学特殊演習（宗教と食）
- (3) 大学院担当科目
 - S：文化現象論
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
 - A：千葉大学「文化人類学原書購読a」
 - A：千葉大学「文化人類学概説a」

3. 学内行政業務

東洋文化研究所・研究企画委員会、東洋文化研究所・汎アジア研究部門主任

||| 関谷 雄一

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・ 『震災復興の公共人類学——福島原発事故被災者と津波被災者との協働』、高倉浩樹と共に編、東京大学出版会
- (3) 学会、研究会発表
 - 学会発表 (2件)

- ・「市民の協働と公共人類学」 日本地域創生学会 第3分科会「社会」(2018/8/25)
- ・「災害に抗する市民の協働」 北京大学医学部医学人文研究所主催「第2回北京大学医学人文国際シンポジウム——生・老・死を語る」(2018/11/15-16)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
Sセメスター 「文化人類学Ⅰ」
- (2) 後期課程担当科目
Sセメスター 「卒業論文演習[文化人類学コース]」
Aセメスター 「文化人類学特殊講義(卒論演習)」
Aセメスター 「文化人類学理論Ⅲ & 超域文化科学高度教養(文化人類学) 合併」
- (3) 大学院担当科目
Sセメスター
「開発と文化Ⅰ&生存とライフスキルⅠ 合併」
「人間の安全保障実験実習Ⅰ&メディア・コミュニティー・ネットワークⅠ 合併」
「人間の安全保障実験実習Ⅱ」
Aセメスター
「文化人類学演習Ⅲ&国際協力論実験実習Ⅱ 合併」
「人間の安全保障実験実習Ⅱ&メディア・コミュニティー・ネットワークⅠ 合併」
「人間の安全保障実験実習Ⅰ」
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
東京外国語大学 国際社会学部 国際地域論A
成蹊大学 文学部 民族誌
埼玉大学 教養学部 エスノヒストリー
南京大学 集中講義「信頼」、信頼関係の成り立ち(「囚人のジレンマ」の先に何があるのか)

3. 学内行政業務

【大学院】

「人間の安全保障」プログラム運営委員、「人間の安全保障」プログラム教務担当、「人間の安全保障」プログラム評価委員長、国際交流・留学生委員

【後期課程】

文化人類学コース主任、超域文化科学学科副主任、教養学科予算委員、国際日本文化コース運営委員(総務担当)

【その他】

グローバル地域研究機構持続的開発研究センター長

||| 田辺 明生

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・2019年「第三章 グローバル市民社会——方法としての主体、可能性としての他者」山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『われわれはどんな「世界」を生きているのか——来るべき人文学のために』ナカニシヤ出版 45-69頁
- ・2019年「南アジアの歴史人類学」山室信一編『人文学宣言』ナカニシヤ出版 190-193頁

- ・2019年「第9章 独立後インドの社会と文化」長崎暢子編『世界歴史大系 南アジア史4 近代・現代』山川出版 290-325頁
 - ・2018年「生き延びてあることの了解不能性から、他者とのつながりの再構築へ——インド・パキスタン分離独立時の暴力の記憶と日常生活」田中雅一・松嶋健編『トラウマ研究1 トラウマを生きる』495-520頁
 - ・2018年「インド・オリッサ州におけるトライブとダリット——マイノリティ集団間関係を考える」『マイノリティ研究会ニュースNo. 83』24-40頁
- (3) 学会、研究会発表
- ・Akio Tanabe “Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India” International Workshop “Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion” National University of Singapore, 29th March 2019.
 - ・Akio Tanabe “Recent Socio-economic Changes in Niyamgiri Region in Odisha, India: With Special Attention to Scheduled Tribes and Scheduled Castes”, International Workshop “New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economies”, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 22-23 December 2018.
 - ・田辺明生 基調講演「日印知的交流の歴史と現代的意義」文部科学省「大学の世界展開力強化事業（インド タイプB）」第一回シンポジウム「日印交流の現状と展望——プラットフォーム構築に向けて」於東京大学伊藤国際学術交流センター 2018年12月20日
 - ・田辺明生 招待講演「インド文明とアフロユーラシア——エジプトとの比較」講演会「エジプトと“環ユーラシア文明”」於東日本国際大学 2018年11月14日
 - ・田辺明生 依頼講演「多様性社会としてのインド——南アジア型発展径路を考える」シンポジウム「インドの価値観と社会構造——日本と西洋との比較研究」同志社大学今出川キャンパス 2018年11月10日
 - ・田辺明生 依頼講演「部族民と不可触民——インドにおける差別の諸形態」人文研アカデミー2018「人種神話を解体する——可視性と不可視性のはざまで(In)Visibility」東京新丸の内ビル 2018年10月12日
 - ・田辺明生 依頼講演「インド史への視座——多様性の統合」川崎市民アカデミー 2018年4月27日
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
- ・2018年〈著者紹介〉松嶋健 プシコ ナウティカ『医療人類学を学ぶための60冊——医療を通して「当たり前」を問い直そう』明石書店 154-6頁
 - ・2018年〈書評〉「坂野徹、竹沢泰子編『人種神話を解体する2：科学と社会の知』」『文化人類学』東京大学出版会
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
- ・2018年『異議申し立てとしての宗教』ゴウリ・ヴィシュワナータン著、(三原芳秋、常田夕美子、新部亨子と共訳) みすず書房、432頁

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初年次ゼミナール文科 文化人類学Ⅰ
- (2) 後期課程担当科目
歴史と文化Ⅰ 社会人類学理論Ⅰ

(3) 大学院担当科目

文化構造論Ⅰ 文化人類学演習Ⅰ 環インド洋地域文化演習Ⅰ

3. 学内行政業務

文化人類学コース副主任、広報委員、進学情報センター運営委員(9月まで)、アジア研究図書館運営委員、附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門兼務教員

津田 浩司

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

2. 編著(1件)

・津田浩司(監修・解題) 2019. 『復刻 共栄報 1942～1945』(全32巻+別冊1), 漢珍數位圖書/ゆまに書房.

(2) 論文

2. 共著(1件)

・Lohanda, Mona (ed.) 2018. *Bibliografi Beranotasi Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia*. Direktorat Sejarah, Direktorat Jenderal Kebudayaan Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan RI. (朝日新聞社史編修センター所蔵のジャワ新聞・ボルネオ新聞関係資料群38件分について、書誌情報および資料内容要約を担当).

(3) 学会、研究会発表(3件)

・津田浩司. (2018. 4. 21) 「日本軍政期ジャワの華僑向け日刊紙『共栄報』の研究」, 東南アジア学会 2018年度第1回関東例会, 於: 東京外国語大学本郷サテライト.

・TSUDA Koji. (2018. 8. 13) “Di Balik Motif: Kedua Kasus Studi mengenai Batik Berunsur ‘Tionghoa’”, International Workshop jointly organized by Pusat Penelitian Sumberdaya Regional — LIPI (Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia), Museum Nasional Republik Indonesia, Direktorat Jenderal Kebudayaan (Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia) & Art Research Center, Ritsumeikan University, “Teknologi Digital Dalam Pengelolaan Warisan Budaya”, @Museum Nasional Republik Indonesia.

・津田浩司. (2019. 3. 18) 「『共栄報』と日本軍政下の華僑社会」, 南山大学外国語学部アジア学科主催セミナー「『国民国家』インドネシア再考」, 於: 南山大学名古屋キャンパス.

(4) 書評、記事、エッセー、その他(1件)

・津田浩司. 2018. 「【書評】松村智雄著『インドネシア国家と西カリマンタン華人——「辺境」からのナショナリズム形成』慶應義塾大学出版会, 2017」, 『東南アジア——歴史と文化』(47): 138-142.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミ文科、現代文化人類学

(2) 後期課程担当科目

フィールド演習、文化人類学特殊講義(民族誌作成)

(3) 大学院担当科目

超域文化科学演習

3. 学内行政業務

- ・文化人類学部会(前期)主任
- ・14号館建物委員長
- ・研究科長補佐(文系)
- ・総合研究博物館運営委員、協議会委員、人類学部門主任

||| 名和 克郎

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・2018「言語人類学」. 桑山敬己 綾部真雄 編『詳説 文化人類学——基本と最新のトピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房, pp. 17-30.
- ・2019「〈コメント〉「東京」のことばと都市の統合的把握のために」. 『ことばと社会——多言語社会研究』20: 73-94.

(3) 学会、研究会発表

- ・Nawa, Katsuo “Ambivalence Denied or Unrecognized? A Preliminary Study on Some Governmental Brochures in the Early Panchayat Period,” presented at the Annual Kathmandu Conference on Nepal and the Himalaya 2018, Hotel Shanker, Kathmandu, July 25, 2018.
- ・Nawa, Katsuo “Imaginary Journeys across Himalayas through Words: On Some Ritual Recitations in Byans, Far Western Nepal,” presented at the Traditions and Changes: The Second International Symposium on Himalayan Studies, ShekeBoyuan Hotel, Beijing, October 23, 2018.
- ・Nawa, Katsuo “Why There Has Been No U-Tokyo School of Cultural Anthropology in Post-World War II Japan: Focusing on Two 1.5 Generation U-Tokyo Anthropologists Working on Asia,” presented at the Conference “Global Asian in Interdisciplinary Perspectives: Sustainability, Security, and Governance,” Nanyang Technological University, Singapore, November 16, 2018.

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・Nawa, Katsuo, and Niwa Mitsuru comp. 2018 *Academic Books related to Nepal written in Japanese in the 21st Century*, Kathmandu: Martin Chautari.

2. 教育実績

(2) 後期課程担当科目

文化人類学理論I(S)

(3) 大学院担当科目

社会構造論(S)、比較民族史演習II(A)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

ITASIA 139 “Intellectual Giants” in UTokyo: Critical Evaluation of Their Accomplishments in Contemporary Contexts (学際情報学府、全7回中1回担当)
南アジア地域特論(東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科、前期)

3. 学内行政業務

東洋文化研究所副所長、総合文化研究科教育会議委員、グローバル地域研究機構運営委員会

||| 福島 真人

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・ 山口富子+福島真人(編) 2019『予測がつくる社会——「科学の言葉」の使われ方』東京大学出版会
3. 共著
 - ・ 2018 Scaling (interdisciplinary research methods) in C.Lury et al (eds) *Routledge Handbook of Interdisciplinary Research Methods*, Routledge, pp. 343-341
 - ・ 2018 LABORATORIUM PHANTASMATUM: Laboratory of Specters, the catalog of SYNCHRONICITY by Apichatpong Weerasethakul and Tsuyoshi Hisakado, NAM 025 Project at Mori Art Museum, Tokyo, Japan
- (3) 学会、研究会発表
 - ・ 2018年12月 「STS事始め——科学技術の社会的研究入門」[SciTS × ABD読書会](チームサイエンス研究会) JST東京本部
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・ 「科学技術のメンテ問題」UP10-552, pp. 12-17
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・ 2018年7月21日トークセッション「アートはどうやってつくられているのか?」久門剛史(アーティスト)との対談、森美術館

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
人文科学ゼミ
- (2) 後期課程担当科目
応用人類学Ⅰ、文化人類学特殊講義(テクノロジーと文化)
- (3) 大学院担当科目
文化認識論、文化人類学演習Ⅰ

3. 学内行政業務

文化人類学コース主任(大学院)

||| 宮地 隆廣

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 1. 単著
 - ・ 「日本ラテンアメリカ学会の会員構成に関する分析」『ラテンアメリカ研究年報』第38号, pp. 179-207.
- (3) 学会、研究会発表
 - ・ 「ラテンアメリカ先住民人権レジームの「逆行」現象とその含意：先住民直接参加の国際組織を事例として」新学術領域研究「グローバル関係学」第2回若手研究者報告会, 京都

大学, 2018年12月10日.

- ・「研究者とキャリアデザイン」第55回ラテン・アメリカ政経学会全国大会, 神田外語大学, 2018年12月2日.
- ・「徴税・債務・社会紛争: ラテンアメリカ国家建設の分析」イベリア&ラテンアメリカフォーラム, 東京外国語大学本郷キャンパス, 2018年10月19日.
- ・«Describing People Far Away from Us: An Examination of Publications on Latin American Politics in Japanese.» XXXVI International Congress of the Latin American Studies Association. Hotel SB Diagonal Zero, Barcelona, 2018年5月25日.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
スペイン語一列①、スペイン語二列、初年次ゼミナール文科、スペイン語特修
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学特殊講義(参加概念の再検討)、地域民族誌II
- (3) 大学院担当科目
文明と地域社会I、文明と地域社会II
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
電気通信大学大学院「国際社会の政治・経済」

3. 学内行政業務

前期スペイン語部会教務委員、研究棟管理委員

||| 箭内 匡

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 1. 単著
 - ・『イメージの人類学』せりか書房、2018年4月、308+v頁
 3. 共著
 - ・前川啓治・箭内匡ほか著『21世紀の文化人類学——世界の新しい捉え方』新曜社、2018年6月、執筆担当部分319-347頁
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「灰色地帯を生き抜けること——『つくば映像アーカイブ』から考える」関谷雄一・高倉浩樹編『震災復興の公共人類学』東京大学出版会 2019年1月、31-53頁
- (3) 学会、研究会発表
 - ・「生きものとしての学術誌——『文化人類学』の編集をめぐる経験から」早稲田文化人類学会シンポジウム「学会誌の編集から文化人類学コミュニティを再想像する」(早稲田大学、2019年1月12日)
 - ・«Affects and Psychoanalysis of Nature,» ヴィンセント・クラパンザーノ教授招聘ワークショップでの発表(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2018年10月14日)
 - ・«Comments» ヴィンセント・クラパンザーノ教授招聘国際シンポジウム“Coping with Vertiginous Realities”(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2018年10月6日)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
文化人類学II
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学理論II、文化人類学特殊演習
- (3) 大学院担当科目
文化構造論II、文化人類学演習II、文化人類学演習III

||| 渡邊 日日

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 1. 単著
 - ・渡邊日日 2018 「シベリア地方主義と『女性問題』——シャシコフの評価をめぐる」、永山ゆかり・吉田陸(編)『アジアとしてのシベリア——ロシアの中のシベリア先住民世界』、東京：勉誠出版、アジア遊学第227巻、82-97頁。
 - (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・渡邊日日 2018 「書評：長縄宣博『イスラームのロシア——帝国・宗教・公共圏 1905-1917』」、『ロシア語ロシア文学研究』50: 176-199頁。
 - ・渡邊日日 2018 「喪の作業——本書の成立について」、服部洋一『生きられる死——米国ホスピスの実践とそこに埋め込まれた死生観の民族誌』、東京：三元社、317-324頁。
 - ・渡邊日日 2019 「言語人類学と文化人類学に関わる幾つかの宿題の断片的覚書、あるいはエイハーン『生きている言語』をめぐる徒然なる随想」、『ことばと社会』、20: 130-162頁。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
ロシア語関連科目
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学特殊演習a(ロシア・東欧の民族)／ロシア東欧政治社会特殊演習a、文化人類学基礎論
- (3) 大学院担当科目
文化人類学演習II

3. 学内行政業務

ロシア語部会予算委員・図書委員・TLP担当委員など。